

第3章 資本の蓄積過程

第2章では剰余価値の源泉とその増大の仕組み、それにともなう諸問題について考察。

第3章の課題：再生産(生産の反復)の過程とそれに内包される諸問題の分析

いかなる経済体制においても人間の生存には再生産が不可欠

再生産はある生産関係の下で行なわれる

⇒再生産過程の分析＝特定の生産関係の再生産の分析

資本主義における生産の目的： 最大限の_____

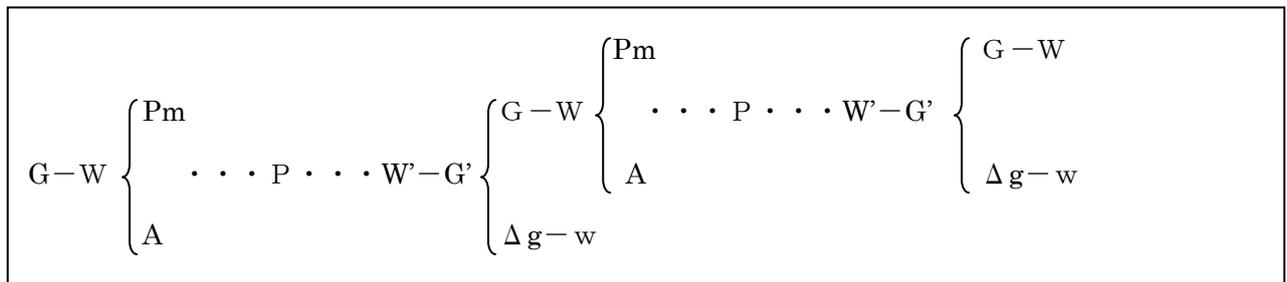
資本主義的再生産過程の分析

1. 資本－賃労働関係の再生産の分析
2. 再生産規模の拡大＝資本蓄積過程の分析：拡大再生産がどのようにして可能となり、どのように進展し、その過程にはどのような問題があるのかを分析

第1節 資本主義的再生産と資本関係の再生産

(1) 再生産と資本関係の再生産

① 単純再生産



資本家は、生産物の販売によって_____資本価値の回収と剰余価値の取得

→この剰余価値のすべてを資本家が消費し、Gを再び生産手段と労働力の購入に投下

⇒同じ規模での生産の反復と_____の生産・取得の反復＝資本主義的単純再生産

② 資本関係の再生産

単純再生産過程＝_____賃労働関係の再生産の過程

資本家：生産物の販売が順調に進めば

1. 投下した資本価値を貨幣形態で回収 ⇒貨幣の再投下により生産の_____が可能
2. 新たに剰余価値を貨幣形態で取得＝_____消費が可能

労働者：

賃金によって資本家から消費手段を購入して消費

⇒ _____ の維持・再生産 = 賃金・消費手段の _____

⇒ _____ の販売が再び可能 = _____ の販売を反復せざるを得ない

資本家は _____ 資本の回収と個人的消費のための貨幣を繰り返し手に入れることができる

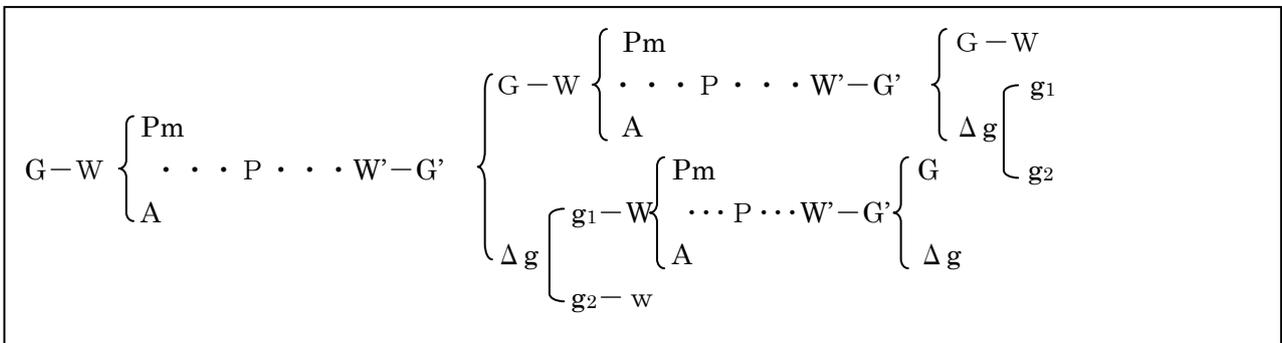
= 資本家階級の再生産

労働者は _____ を再生産しつつその販売を余儀なくされる

= 労働者階級の再生産

(2) 資本蓄積 — 資本主義的「取得法則」 —

① 資本蓄積



剰余価値の一部 g_1 が資本へ転化され、資本として機能すれば

拡大された規模での再生産 = 拡大再生産が行なわれる

資本の蓄積: 剰余価値が資本へ転化され資本として充用されること = _____ の使途からみた概念

拡大再生産: 資本蓄積によって資本規模が拡大 = その結果を _____ 規模の視点からみた概念

剰余価値が追加資本として機能する場合

- (a) 新たに労働手段 1 セット・大量の原材料・労働力に対して投下
- (b) _____ 期にある元の資本に追加・合体して資本規模・生産規模拡大
- (c) _____ 的に機械や労働力を追加するために追加投資

資本の投下先; 従来の生産部門, 既存の他の生産部門, 新しく形成された生産部門

どこに投下されても資本蓄積に変わりはない

蓄積基金の積み立てと投下:

(a) や (b) の場合, 一定規模の資金が必要。1 回の生産・取得した剰余価値では不十分な場合

貨幣形態の剰余価値を一定期間積み立て = 蓄積基金の積み立て = 一方的 _____

⇒ 蓄積に必要な規模になった時点で, その蓄積基金を一挙に投下して蓄積 = 一方的 _____

* 固定資本の流通の特殊性と同様の問題 = 販売と購買の時間的 _____ が生じる

資本蓄積過程の進展

資本蓄積では、蓄積される資本はすべて労働者が生み出した_____にもとづく

⇒労働者階級は自分たちが過去に生み出したものによって追加雇用

⇒いっそうの剰余価値生産の増大

この過程の進展

⇒一国の_____総額の大部分が労働者の生み出した剰余価値の転化した資本

② 資本主義的取得法則

他人の労働の支配にもとづく_____と自分の労働の成果の_____

(a) 生産手段の所有者と生産者が同一の場合

小生産者の場合：

生産手段を個別・分散的に所有し自分の_____によって商品生産を行なう

=労働生産物はすべて_____の所有

⇒生産物の販売

⇒必要な消費手段と次期の生産のための生産手段を取得

*所有は自分の_____にもとづく

(b) 資本主義的単純再生産

最初に投下した資本価値を維持しているだけ？

剰余労働を取得しなかったとしたら？

資本家の消費の継続⇒最初に投下した資本価値額にあたる貨幣の_____

資本価値の維持の秘密：

他人=労働者の労働の生み出した価値の一部を_____し、個人的消費を行なってきたからだ！

資本家の資本価値の所有は他人の労働の_____によってはじめて可能

(c) 資本蓄積

蓄積される資本のすべては_____

⇒所有はすべて他人の_____の支配にもとづく

資本主義的生産では、資本家の側では他人の労働の支配にもとづく所有と、労働者の側では自分の労働で生み出した労働生産物が所有できないという「資本主義的取得法則」が貫いている。

第2節 資本蓄積と生産力向上との相互促進的進展

第2節の課題

資本主義的生産の目的：最大限の_____

資本蓄積⇒より大量の剰余価値の生産 ⇒資本蓄積の累進的拡大への内在的傾向

この内在的傾向を現実化し、諸資本に強制する社会的メカニズムの存在

資本蓄積を個別資本に促進・強制していく社会的メカニズムとはどのようなものか？

キー概念：個別諸資本間の_____

(1) 生産力向上のための資本蓄積

生産力向上⇒_____剰余価値の取得

その生産力向上のために資本蓄積=資本規模の拡大が必要となる

① 生産力向上の基本的傾向

生産力の向上 { 一定の生産量に対してより_____労働量
 一定の労働量に対してより_____生産量

資本主義的生産は最大限の価値増殖が目的

⇒生産規模の_____の方向が選択される

基本的傾向=機械体系の改良・大規模化と大量の労働力との合理的・組織的結合

② 特別剰余価値獲得のための資本規模拡大

特別剰余価値の獲得のための生産力向上

⇒大規模な労働手段体系と大量の労働力・大量の原材料が必要

⇒資本規模の_____が必要

* 新生産方法の率先的導入競争に勝つためには資本_____の拡大が不可欠

③ 損失を回避するための資本規模の拡大

新生産方法の普及

→その部門の供給総量が_____→市場価格_____

⇒旧生産方法で生産コストの高い企業にとっては

剰余価値の_____→_____の発生・資本価値の回収_____

* 生き残るためにも新生産方法の導入が_____される

新生産方法の導入→部門全体の供給総量のいっそうの_____

=_____のいっそうの低下が明らかだとしても・・・

生産力の向上は、競争の_____作用のもとで、一部の弱小資本の破滅をともないながら、
 新生産方法の全般的な普及を通じて実現される

同時に資本蓄積による資本規模の拡大・生産規模の拡大が進んでいく

*資本蓄積は_____の向上のための不可欠の前提

(2) 生産力向上による資本蓄積の促進

生産力の向上が資本蓄積のための条件を生み出し、資本蓄積自体を倍加し促進する作用

① 剰余価値の増大

生産力の向上⇒相対的剰余価値の増大：労働力商品の価値の低下

- 必要生活手段の価値低下
- 労働の単純化による育成・訓練費の減少
- 女性や子どもの労働力化による 家族費の減少

絶対的剰余価値の増大：機械への投下資本価値の早期_____のための労働強度の増大

*剰余価値の増大⇒資本蓄積の_____

② 労働力不足の緩和・解消

資本蓄積の進展⇒資本規模の拡大⇒_____需要の増大

生産力の向上⇒

- 一定の生産手段に必要な労働者数の_____作用
- 労働の単純化→労働可能人口の_____作用

⇒資本蓄積にともなう労働力不足の制限を緩和・解消する方向に作用

③ 蓄積率の上昇

剰余価値＝資本蓄積＋資本家の消費

生産力の向上⇒消費手段の価値の低下

⇒資本家の消費部分の比率_____

⇒資本蓄積部分の比率＝蓄積率_____

④ 資本投下分野の拡大

生産力の向上⇒使用価値の量や多様性の増大⇒

- 追加資本投下の対象の増大
- 新しい生産部門の形成

⇒新しい資本投下分野の_____

*資本蓄積過程は、資本蓄積と生産力向上が_____的に進展していく過程

(3) 資本蓄積の進展過程の特徴

① 生産力向上・資本蓄積の「無制限的」拡大傾向

競争の支配的な資本主義における資本蓄積過程：

市場の諸条件＝_____の状態を超えて生産力・資本蓄積(→生産)が拡大していく

基本的な傾向をもっている

But, 資本が生産活動を行なう目的を考えると, こうした基本的傾向があると主張することは

矛盾しているのでは？

(a) 市場条件と剰余価値の取得

資本の目的：最大限の価値増殖・剰余価値の取得

そのためには, $W' - G'(G + \Delta g)$ が実現しなければならない

＝商品価値・剰余価値の「実現」が不可欠

価値の順調な実現($W' - G'$)のための条件は？

商品販売市場において 需要_____供給 であること

需給の状態(市場条件)⇒価格の運動

需要 > 供給 ⇒ 価格_____

需要 < 供給 ⇒ 価格_____

価格が上昇傾向・市場拡大が予想される場合

⇒生産拡大・資本蓄積拡大⇒剰余価値の増大

価格が低下傾向の場合

生産力向上・資本蓄積の無制限的拡大傾向とは？

価格が低下傾向・市場拡大が見込めない場合でも

(＝生産した商品が順調に売れそうにない時にも)

資本家は生産・資本蓄積を_____させるという主張

マルクスは矛盾しているのか？

(b) アダム＝スミスの資本蓄積論

Adam Smith (1723～1790, cf. Karl Marx 1818～1883)

個々人の利己心にもとづく行動が市場メカニズム(神の_____手 invisible hand)によって

経済の均衡を実現するという考え方を提示

スミスの資本蓄積論の本質

富(wealth)は人間の_____的労働から生まれる

雇い主(資本家)の利潤の使途

A 自分の贅沢のために女中や召使など富を生まない_____的労働者を雇う

B _____的労働者(農業・工業など)を雇う

富が増大するのは_____の場合

⇒雇い主が節欲・儉約に努めて利潤を_____的労働に投下する

⇒資本蓄積の増大

⇒諸国民の富(The Wealth of Nations)の増大

マルクスのスミス批判

資本蓄積が増大するのは

資本家が_____にもとづいて節約・禁欲して蓄積に努めるからではない!

資本主義的生産においては,

資本家に資本蓄積を促進し強制していく_____的メカニズムがあるのだ!!

そのメカニズムこそが市場の諸条件を超えて資本蓄積を増大していく力である!!!

(c) 近代経済学のマルクス批判

ケインズ(John Maynard Keynes 1883~1946)やロビンソン(Joan Violet Robinson 1903~1983)の

マルクス批判

1. 資本家は基本的には_____を指標として行動

2. 投資額に見合う収益の予想⇒投資の_____

3. 市場条件の悪化の予想⇒投資は実行_____

マルクスの主張のように、資本家は常に蓄積を迫られているわけではない

有利な投資機会がない時には投資は当然行なわれない

どういう条件のもとで投資が行なわれるかという投資_____論がマルクスには欠落している!

(d) 市場の全般的停滞下での資本の行動

では、マルクス経済学はどのように考えているか?

キー・ワードは_____

前提: 市場が全般的に停滞している

社会全体で市場拡大の見通しがなく市場価格も低下傾向

この条件下で、より多くの剰余価値を獲得するために、資本家はどのような行動をとるべきか?

i) 総資本としての合理的行動

需要<供給で需要拡大の見通しもない

価格低下⇒剰余価値の減少

資本家全体の立場に立てば

価格低下の防止または価格つり上げ⇒剰余価値の確保・増大

*生産_____が合理的行動(投資などもってのほか)

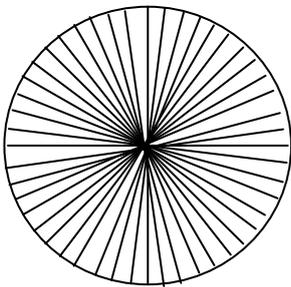
⇔競争的市場においては

資本家の統一的意志の下でこうした行動が実現することは? _____

総資本としての合理的行動と個別資本にとっての合理的行動は_____

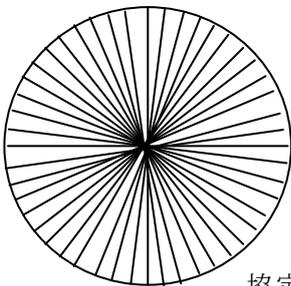
競争的市場の基本的特徴 ; 市場規模に比べて小規模の資本が多数存在している

(A) 個別資本家が生産を縮小したら?



{ 市場規模に対して_____
他の資本の供給_____・販売_____
⇒価格に影響_____

(B) 多数の資本家が協定を結んで生産縮小したら?



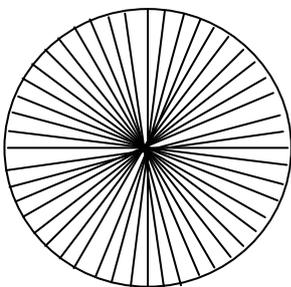
協定を結ぶべき資本家の数が非常に多数

{ 生産条件が異なる⇒生産量調整の要求水準が_____
協定破りを防ぐことが非常に_____
⇒協定を結び・維持することは非常に_____

協定の締結は困難であっても可能性ゼロではない

協定が成功したら?

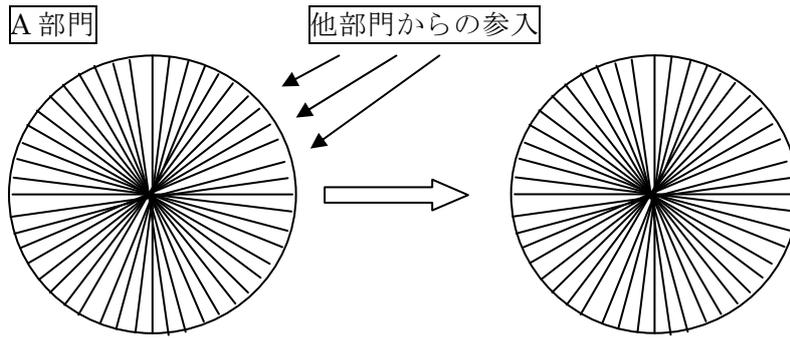
A 部門



A 部門において協定の成功→生産・供給_____→価格_____

⇒剰余価値の_____・利潤率の_____

(C) 他部門の資本家はどのような行動を取るか？



低利潤率の他部門の資本家にとって A 部門の高利潤率は魅力的

⇒A 部門への参入(参入を阻害する要因なし)

⇒価格は再び _____ =利潤率 _____

⇒A 部門の資本家の販売量減少・利潤減少

競争市場における価格支配の可能性

- (A) 個々の資本家は自己の生産量調整によって価格に影響を与えるのは _____
- (B) 多数の資本家の協定による生産量調整・価格支配が _____
- (C) 部門外からの参入が _____

結論：

競争市場においては生産量・供給量調整による価格支配は _____

この条件の下で、個別資本が取りうるもっとも合理的な行動は？

ii) 個別資本にとっての合理的行動

価格支配は不可能⇒ _____ の低下をめざす

生産力の向上⇒ _____ 低下⇒若干の安売り可能⇒販路 _____

平均以上に生産力の高い優秀な新生産方法の導入

→生産物 1 単位当たりの _____ の低下

→平均以上の剰余価値＝特別剰余価値を獲得

*生産力向上と結びついた資本 _____ の拡大が必要

新生産方法の普及過程

導入に遅れた資本⇒マイナスの特別剰余価値

*生き残るための生産力向上・資本蓄積の強制＝ _____ の強制作用

価格の低下傾向⇒この作用はいっそう強く働く

iii) 新生産方法導入と普及の影響

新生産方法の導入と普及

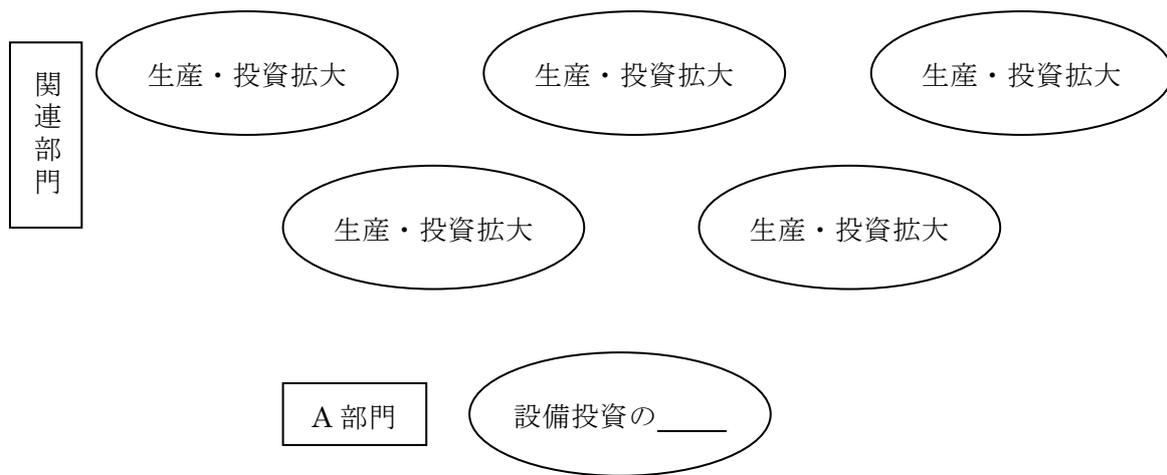
⇒資本蓄積・設備投資の_____ (短期間に集中)

⇒関連部門への需要の_____

⇒需要の波及した部門での生産・投資_____

⇒さらに関連部門への需要の波及⇒・・・⇒全般的な市場の拡大の促進

設備投資の群生と関連部門への波及(図解)



設備投資の群生と関連部門での生産・投資拡大

⇒相互_____効果による市場の全般的拡大 [この点については流通過程の分析が必要(第4章)]

競争の支配的な資本主義においては、競争に勝ち最大限の価値増殖をめざすためにも、競争に生き残り資本として存続していくためにも、生産力向上と結びついた資本蓄積の拡大が強制される

個別資本の投資行動

市場の諸条件に受動的に対応する行為 = 市場拡大の場合にのみそれに応じて追加投資

*市場停滞下⇒特別剰余価値の獲得競争はより_____

=資本主義経済の不況からの回復メカニズム

② 市場構造の変化

(a) 最低必要資本量の増大

生産力の向上⇒より大規模な労働手段体系・機械体系の巨大化

⇒生産規模の増大 = 原材料・労働者数の増大

大規模生産⇒その部門の_____的な生産条件になると

⇒資本として生産を継続していくための最低必要資本量*が傾向的に_____していく

*ある生産部門において標準的・平均的な生産条件で生産を行なっていくために最低限必要な資本量

(b) 資本の集中

最低必要資本量を調達できない弱小資本→マイナスの特別剰余価値・損失の傾向的

- その部門からの _____
- 大資本による _____
- 複数の中小資本の _____

⇒大資本への資本の集中：諸資本間の吸収・合併(M&A)により

個別資本の規模拡大・部門内企業数の _____

⇒主要な生産部門の生産が少数の巨大な資本だけによって営まれていく傾向

信用制度の発達：株式会社制度や金融機関の発達

株式会社の特徴：有限責任制・持ち分の少額分割・譲渡性

⇒小規模・零細な社会的資金の動員

⇒大資本への資本の株式会社制度や金融機関を促進

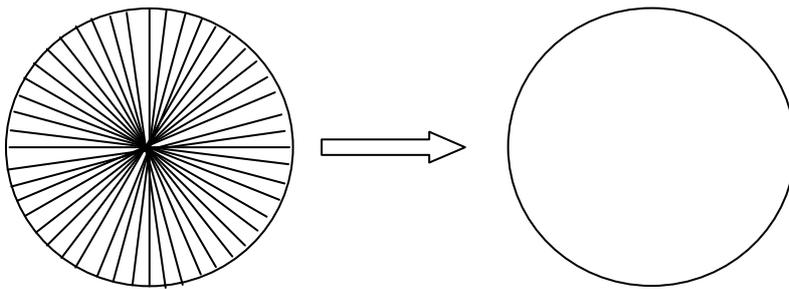
(c) 独占的市場構造の形成

- 競争⇒最低必要資本量の傾向的増大
- 信用制度の発達

⇒資本の集積・集中の進展 資本の集積：資本蓄積による資本規模・生産規模の拡大

⇒市場構造の変化

資本の集積・集中



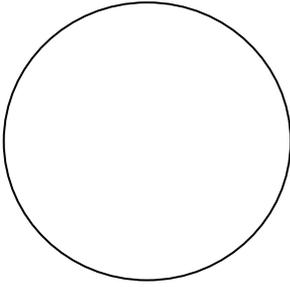
独占的市場構造の形成

(d) 独占的市場構造の特徴(詳しくは三田の講義で)

i) 市場集中度の高度化

⇒ _____ 競争の制限

- 個別資本の生産量の増減→市場 _____ に影響
- 巨大資本間の協定→部門全体の生産量 _____



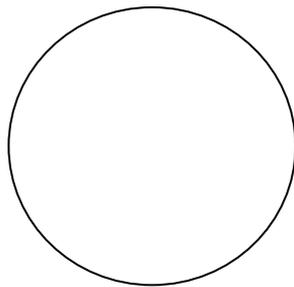
ii) 参入障壁

他部門からの参入を制限する諸要因

- 巨額の_____資本量
 - 参入によって生産能力増加→利潤率
 - 既存企業の_____面での優位性など
- ⇒_____競争の制限

他部門からの参入

他部門からの参入



独占的な価格支配：

(a) 市場集中度の高度化と (b) 高い参入障壁によって

競争が全面的に支配した場合よりも多くの利潤を長期間にわたって獲得できるように
価格を設定することができるようになる

③ 生産の社会的性格の強化

資本蓄積と生産力の向上の相互促進的進展

(a) 工場内分業の深化と規模拡大

- 労働手段体系の_____
- 有機的関連をもった集団的労働の規模_____

(b) 社会的分業の深化と拡大

- 生産部門の数の_____
- 部門相互の直接・間接の関連が_____
- 部門相互に大きな影響を与えあう関係が_____

第3節 資本蓄積の進展と労働者階級の状態

課題：資本蓄積と生産力の向上とが相互促進的に進む資本蓄積過程は

労働者階級にどのような問題をもたらすのか？

I 有機的構成高度化と相対的過剰人口

(1) 資本の有機的構成とその高度化

① 資本の技術的構成

労働過程において

{ 主体的要因＝労働力
客体的要因＝生産手段

両者がどのような比率で組み合されているかを_____面からみた構成比

② 資本の有機的構成

資本の技術的構成を_____面から評価

{ 可変資本量＝労働力に投下された資本額
不変資本量＝生産手段に投下された資本額

両者の構成比(C : V または C/V)

③ 生産力の上昇と資本の有機的構成

(a) 生産力の変化

⇒技術的構成の変化 ⇒資本の有機的構成の変化

ただし、生産力不変＝技術的構成が不変のもとで

労働力の価値の変化や原料の価値の変化

⇒不変資本量と可変資本量の比率の変化_____有機的構成の変化

(b) 生産力の向上の一般的傾向

＝一定の労働力に組み合される生産手段量の_____

⇒資本の技術的構成の_____

⇒可変資本量に対する不変資本量の比率の_____

*生産力の向上⇒資本の有機的構成の_____

(2) 相対的過剰人口

充用されている資本量に組み合されるのに必要な量以上の過剰な人口

もっとも明確な形態＝_____

① 生産力の向上⇒資本の有機的構成 C/V _____
 ⇒一定量の投下資本で充用される労働者数の _____
 =失業者の _____作用⇒相対的過剰人口の発生

② 資本蓄積⇒投下資本量の _____
 ⇒雇用労働者数の _____作用
 =労働力の _____作用 =失業者の _____作用

①と②両者の作用と相対的過剰人口の発生

資本蓄積の進展過程 = 生産力向上と資本蓄積の _____ 促進的進展過程

{ 生産力の向上⇒有機的構成高度化 = 必要な労働力の _____作用
 { 資本蓄積 = 雇用労働者数の _____作用

両者の関係をどのように考えるか？

マルクス：「相対的過剰人口の累進的生産」

批判：両者のテンポしだいで不定⇒常に過剰人口が発生すると断定できない

反批判：論証の試みの例 = 長期趨勢的にみれば $(a) > (b)$

*相対的過剰人口は常に _____ していくものではない

生産力向上・資本蓄積過程の十分な分析が必要

(3) 相対的過剰人口の発生

① 労働力供給総数一定の場合

新生産方法導入⇒資本の有機的構成高度化

(a) 元の資本の現物更新時に導入

更新投資時の導入⇒有機的構成高度化

⇒充用労働者数の _____ 的減少

[例]1,000人を雇用している工場の更新時に、 $C:V$ が4:1から5:1に上昇したとすると

同額の生産手段で雇用される労働者は _____ 人に減少

(b) 追加資本部分のみに導入

追加資本部分のみ有機的構成が高度化

⇒充用労働者数は _____

ただし、旧生産方法による場合に比べて追加雇用される労働者数は _____

[例]1,000人雇用の工場に設備を追加

旧式設備なら100人の追加雇用が必要な場合⇔ C/V 上昇によって追加雇用は _____ 人に減少

(c) 現物更新と追加投資が合体して導入

{ 元資本部分⇒労働者数の _____
追加資本部分⇒労働者数の _____

両者の大小によって充用労働者数の増減

[例]1,000 人雇用の工場を設備を追加して更新

旧式のまま = _____ 人 新式で更新 ⇒ _____ 人

より一般化して考えてみると

1. 充用労働者が減少しない場合

【前提】

旧生産方法の C : V = 4 : 1

新生産方法の C : V = 5 : 1

[A] 更新前の設備の価値構成 = 4000C + 1000V で 1000 人が雇用されているとする

(ア) 旧来の生産方法で 500 の資本蓄積

400MC + 100MV で 100 人を追加雇用 ⇒ 充用労働者数合計は 1100 人

(イ) 更新時に新生産方法を導入して更新・追加投資

充用労働者が減少しないために必要な資本蓄積規模はどうか？

更新後の資本の価値構成 = 4000C + 800V

⇒ 更新部分の充用労働者数は _____ 人に減少

充用労働者数合計が減少しないためには _____ 人を追加雇用できる規模の資本蓄積が必要

C : V = 5 : 1 ⇒ _____ MC + _____ MV = _____ の資本蓄積が必要

旧方式の場合の 3.6 倍！

[B] 更新前：8000C + 2000V で 2000 人雇用の場合

(ア) 旧方式で 500 の資本蓄積 ⇒ 400MC + 100MV

100 人の追加雇用 = 充用労働者数は合計 2100 人

(イ) 更新部分の充用労働者数は _____ 人に減少

⇒ _____ 人を追加雇用できる規模の資本蓄積が必要

_____ MC + _____ MV = _____ の資本蓄積が必要

旧方式の場合の 6 倍!!!

2. 一般的傾向

過去の資本蓄積による投下資本総量の増大 ⇒ 元資本部分の充用労働者数減少の影響は _____

C/V→追加資本の労働力充用率の_____作用

⇒その作用を補うだけの巨額の追加資本投下が行なわれなければ過剰人口の発生は不可避
資本蓄積の進展過程の特徴

競争の_____作用⇒新生産方法の導入

⇒旧式設備全体の生産方法への置き換えの促進・_____

*一般的には、資本主義的蓄積過程は相対的過剰人口を発生させながら進展する傾向をもつ

② 労働力供給総数が増加する場合(人口の増加という自然的要因を除く)

(a) 労働の単純化

生産力の向上 ⇒労働の_____化⇒就業可能な労働者数を_____させる作用

(b) 農業部門における生産力の向上

農業部門=利用可能な土地の存在量が_____

生産力の向上：農業機械の導入・改良，肥料や農薬の発展

⇒労働者数の_____的減少をもたらす傾向

⇒農業部門から労働者の_____

*非農業部門において就業可能な労働者数の_____

③ 資本主義的蓄積過程の一般的傾向

資本蓄積・生産力上昇⇒

- 1. 元資本部分の大規模化→充用労働者数の絶対的減少作用の_____
- 2. 資本の集中の促進
→資本規模拡大による新生産方法導入の促進→元資本部分の_____上昇
→充用労働者数の絶対的_____
- 3. 労働の単純化→就業可能な労働者数を_____
- 4. 農業部門の生産力上昇→労働者の_____

=相対的過剰人口の累進的生産メカニズム

④ 急激な資本蓄積の進展

(a) 相対的過剰人口の吸収

- 相対的過剰人口創出作用以上の速度の追加投資
- 生産力向上をとみなわない追加投資
- 新生産部門の形成

これらの投資が急激に進めば？

⇒充用労働者数の絶対的_____

⇒相対的過剰人口の_____→労働力_____

⇒賃金上昇

賃金上昇率_____ある部門の生産物価格の上昇率

⇒その部門の利潤率低下

*利潤率低下はどこまで進むか？何をもたらすか？

(b) 賃金率上昇と新生産方法の開発・導入

賃金率上昇⇒_____節約的な生産方法*の導入・開発の促進

*賃金上昇がなければコスト面で_____のため導入・開発されなかった機械等

(c) 資本蓄積と新生産方法の開発・導入

活発な追加投資⇒剰余価値生産・取得の_____

⇒巨額の_____が必要な機械体系の開発・導入

⇒有機的構成の高度化の源泉

(d) 利潤率低下と資本蓄積

賃金上昇の継続⇒価値増殖不可能

(_____水準・完全雇用に不十分な生産水準でも)

⇒資本蓄積・生産規模の拡大停止

⑤ 市場の制限の問題 —— 景気循環と相対的過剰人口

追加投資による労働者の吸収→賃金_____→利潤率_____→限界点で資本蓄積_____

=完全雇用に近い状態の継続____相対的過剰人口の累進的生産

資本蓄積過程=景気循環過程を通じて進展

相対的過剰人口問題：

市場の拡大と制限・景気循環過程において、どのように展開するのかという考察が必要

(a) 市場が停滞的な場合

1. 新生産方法導入をめぐる競争

新生産方法の導入・普及→供給総額の増加→市場価格の_____

⇒新生産方法を導入できない弱小企業の_____⇒その企業の雇用労働者の_____

=直接的には倒産による_____

*部門全体で見ると

資本の有機的構成の高い新生産方法の比重_____

- ⇒資本の有機的構成の部門_____の高度化
- ⇒投下資本総額に対して必要な労働者数の_____
- ⇒相対的過剰人口の発生

2. 部門間資本移動

- 資本の有機的構成の高い新生産部門の形成
- ⇒既存部門→新生産部門への資本_____
- ⇒既存部門の生産縮小・衰退=_____構造の変化
- 新生産部門の C/V _____ 既存部門の C/V
- ⇒既存部門の充用労働者の一部の不要
- =直接的には既存部門の_____による失業の発生

*社会全体で見ると

- 資本の有機的構成の_____の高度化
- ⇒投下資本総額に対して必要な労働者数の_____
- ⇒相対的過剰人口の発生

(b) 市場が拡大していく場合

1. 設備投資の活発化による市場拡大

- 新生産方法導入→ C/V 上昇→相対的過剰人口増大
- 新生産方法導入にともなう更新・新投資の活発化
- ⇒関連部門への生産手段需要の_____
- ⇒市場全体の拡大
- ⇒生産拡大・資本蓄積の増大による労働者の_____
- =相対的過剰人口の減少

2. 恐慌による労働力の過剰化

資本主義的生産特有の制限(→第4章・終章) ⇒全般的過剰生産恐慌⇒大量の失業の発生

この大量の失業は

- 直接的には恐慌による激しい再生産規模の_____によって発生
- さらに、好況によって顕在化せずに累積していた
- C/V 上昇による労働力の_____作用の顕在化

相対的過剰人口の累進的生産：

景気循環にともなう労働者の吸引と排出・不安定な雇用の問題を考慮する必要

(4) 産業予備軍としての機能

資本主義的生産:資本蓄積のために必要な相対的過剰人口を生産していくメカニズムを備えている

相対的過剰人口:就業労働者より_____な労働条件でも働こうとする

⇒労働者の資本への_____を強化

⇒賃金切下げ・労働時間延長・労働強度増大など=労働条件の悪化をもたらす作用

資本が自ら生み出す相対的過剰人口

⇒資本蓄積のために有利で_____な予備軍

=産業予備軍として利用

(5) 相対的過剰人口の存在形態

(a) 流動的過剰人口

資本蓄積過程において

資本の有機的構成の高度化と資本の量的_____の動向によって

吸引と排出(就業と失業)を繰り返す流動的な形態

(b) 潜在的過剰人口

農業部門での C/V 上昇→農業労働力の_____

非農業分野で大幅な雇用増大が生じるまで

遅れた自営農業などのもとで臨時的な労働をしつつ存在している形態

(雇用統計上, 失業者としてはカウントされない)

(c) 停滞的過剰人口

近代的マニファクチュアや家内労働などの遅れた生産分野で一応就業

不規則・不安定な就業, 低賃金・低労働条件=_____状態

旧熟練工や中高年齢者, 障害者や病弱者など

=近代的産業の労働者として雇用されない形態

急速な生産_____・労働者の_____がかなり継続して初めて就業可能となる停滞的形態

* 固定的・慢性的窮民層

労働条件のより悪い階層への転落⇒極度の生活不安・困窮

⇒救済なしには生きていけない受救貧民

II 資本主義における生産力発展の性格

(1) 生産力発展の成果の利用に関する決定権

① 生産力発展の本来的性格

新技術・生産力の発展

- { 一定の生産量→必要労働量の _____
- { 一定の労働量→生産量の _____

⇒労働の軽減・生活の向上・多様化の可能性

② 生産力発展の成果の資本主義的利用

資本主義の下では、利潤増大を目的として

- { 1. 労働 _____ (投下資本の早期回収・特別剰余価値の早期獲得)
- { 2. 労働内容の空疎化(単純労働の反復を含む)
- { 3. 労働分配率の _____
- { 4. 労務管理の _____
- { 5. 相対的過剰人口の累進的生産

*労働者階級は、新技術・生産力発展の成果の利用に関する _____ に参加できない!

(2) 資本主義的生産固有の過剰人口

① 相対的過剰人口は技術進歩に不可避なのか?

生産力の発展⇒

- { 労働者一人当たりの労働支出量の _____
- { 個人的・社会的消費の拡大・充実

=豊かな生活の実現の _____

資本主義的生産：最大限の価値増殖の目的・基準のもとに利用

⇒資本の有機的構成の高度化⇒労働支出量の _____ ・一部の労働者の _____

② 生産力向上と資本の有機的構成の変化

【例】綿花 20kg を 1 日 8 時間の労働によって綿糸生産→生産力の上昇で同じ労働時間で 40kg 生産

(a) 資本主義においては

1 人の労働者が 8 時間労働で 40kg 生産

労働者 1 人が加工する綿花は 20kg→40kg に増加

⇒技術的構成が _____

価値的構成を見ると労働力の価値 _____ ⇒賃金 _____ であるから

24,000 円 : 4,000 円 → 48,000 円 : _____ 円 = 有機的構成が高度化

(b) 生産力向上の成果の利用方法を変えると

1. 1人あたりの労働時間を4時間に削減

労働者1人が加工する綿花は20kgのまま

⇒技術的構成 _____

価値的構成：賃金不変で24,000円 : _____ 円

=有機的構成 _____

2. 1人あたり8時間労働のまま賃金を2倍に増加

労働者1人が加工する綿花は20kg → 40kgに増加

⇒技術的構成 _____

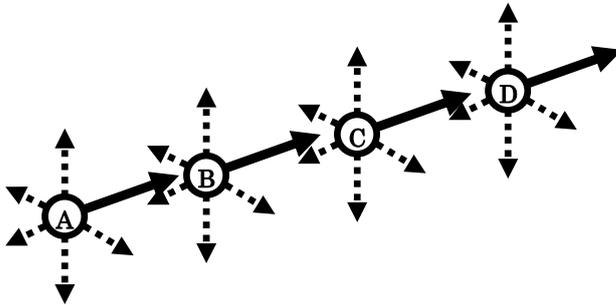
価値的構成：賃金2倍 24,000円 : 4,000円 → 48,000円 : _____ 円

=有機的構成 _____

3. 1人の労働時間削減・労働者増加・生産量増加は？

(3) 技術開発の方向の選択基準

本来、技術発展は多様な方向性をもっている



どの方向への発展が選択されるか？ = どのような階級の間人がその選択に参加できるか

これは、選択された方向に重大な問題点が発見され、修正の必要性が明らかになった場合

- ┌ どのような修正の方向が選択されるか？
- ├ その選択はどのような方法で行なわれるのか？
- └ いかなる時点で行なわれるのか？

も規定する

① 「経済効率」という語の意味するところ

(a) 技術発展の方向性の選択

資本主義において生産力の発展方向の決定を行なう階級 = _____ 階級

選択の第1の基準 = _____ の獲得・増大

- | | |
|---|-----------------|
| { | 生産過程の安全性 |
| | 生産物の安全性 |
| | 産業廃棄物の排出(結合生産物) |

これらすべてを含めた Input-Output 比率= _____ 比較の視点はもともと欠如している
 ⇒労働災害・欠陥商品・公害等の問題発生の基盤

(b) 選択の修正とその方法の決定

選択の問題点が明らかになり修正が加えられる場合

資本主義の枠内= _____ メカニズムの支配の枠内

*問題点を生み出した体制自体は修正されない!

⇒資本主義における生産力発展→深刻な人間・自然環境破壊の可能性とその解決の困難性の基盤
 少数特権的階級に決定権が集中された体制=同様の問題が生じる可能性(ex. ソ連型社会主義)

② 軍事技術とそれに由来する技術

_____ と _____ を視野に入れない性格・破壊的性格：帝国主義段階以降においていっそう重要

(4) 労働者階級の消費制限

資本主義的生産は、生産力の向上に対応して、

労働者 1 人あたりの賃金上昇→消費拡大をもたらすメカニズムをもたない

⇒労働者の消費 _____

⇒市場の拡大を究極的に制限

⇒資本蓄積の進展の制約(→第 4 章・終章)

相対的過剰人口は

生産一般にとって絶対的に過剰な人口

最大限の価値増殖のために資本蓄積を行なおうとする _____ にとって過剰な人口